

ご寄附のお願い

街の中に、いつも大学病院

総務課企画調査係

当院は「地域医療と先進的医療の調和」を理念に掲げ、地域に根ざした高度医療を提供してきました。医学部創立 50 周年を迎えた現在も、急性期医療の充実や専門医・高度医療人材の育成など、地域医療を支える大学病院としての役割を果たし続けています。

一方、国立大学病院を取り巻く環境は年々厳しさを増し、より良い医療体制を維持・発展させるには、これまで以上の取り組みに加え、皆さまからのご支援が大きな力となります。

皆さまにとって「街の中に、いつも大学病院」がある安心を実感いただけるよう、日々の診療から未来を見据えた医療創出まで、絶え間なく努力を重ねてまいります。

こうした取り組みを進め、地域の医療を守り続けるために、皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。



島根大学医学部附属病院長

田邊 一明



寄附のご案内資料(申込書付き) 郵送をご希望の方、またはお問合せは下記までご連絡ください。

問い合わせ先 医学部総務課 企画調査係 TEL:0853-20-2018 E-mail: 50th@med.shimane-u.ac.jp



NEWS



CONTENTS

中表紙

退職のご挨拶
循環器内科 教授 田邊 一明
呼吸器・化学療法内科 教授 磯部 威

裏表紙

ご寄附のお願い
街の中に、いつも大学病院

表紙：(右)循環器内科 教授 田邊 一明
(左)呼吸器・化学療法内科 教授 磯部 威

退職のご挨拶

循環器内科 教授 たなべ かずあき
田邊 一明

1985年に本学を卒業し、当院で循環器内科医として医師人生がスタートしました。国内留学、アメリカ留学を經まして、前任地の神戸市立医療センター中央市民病院から2008年5月に島根大学医学部内科学講座（内科学第四）教授、循環器内科診療科長として着任しました。以来17年間の歳月があっという間に過ぎました。2019年からは当院副病院長として井川幹夫・前病院長、椎名浩昭・現病院長とともに病院運営に携わり、各種委員会でも活動させていただきました。



左:椎名 現病院長、中央:筆者、右:鬼形特任教授

循環器内科としましては、2008年5月に着任時は私も含めて学内に6人の医局員しかいませんでしたが、2025年4月には学内に18人、県内外にも医師を派遣でき、地域医療に貢献する医局に発展させていただきました。心筋梗塞や急性心不全など循環器救急疾患に対応するために24時間の診療体制を整え、弁膜症治療、不整脈治療、成人先天性心疾患への治療体制も構築することができました。ハートチーム、多職種の皆様の協力を得て、2018年には経カテーテル大動脈弁留置術を開始し、2023年から経皮的僧帽弁接合不全修復術、2026年1月には経カテーテル心房中隔欠損閉鎖術を実施できました。また新たな治療薬が登場してきた心アミロイドーシスに対しても県内広くから症例の紹介を受け、積極的に介入できています。高度に専門分化する循環器診療において、これまで以上に人材の育成、多くの職種の皆様、地域医療に関わる皆様のご支援が必要です。今後ともよろしく願い申し上げます。

問い合わせ先 循環器内科医局 TEL:0853-20-2249

退職のご挨拶

呼吸器・化学療法内科 教授 いそべ たけし
儀部 威

2004年3月、米国MDアンダーソンがんセンターから島根大学に赴任し、呼吸器内科の新設という大役をお引き受けしました。赴任当時、呼吸器内科医は私一人、割り当てられた病床はわずか2床という状況からのスタートでしたが、あれから22年が経ち、多くの呼吸器内科医が在籍し、あらゆる呼吸器疾患に対応できる診療体制が築かれました。また、呼吸器内科医を育成するための教育・研修環境も整いました。今後も一人でも多くの医師が島根大学で成長し、県内の診療体制充実に寄与することを心より願っております。



この間、呼吸器診療は着実に進歩しました。気管支喘息は寛解や治癒を目指す段階へと進み、間質性肺炎に対しては抗線維化薬による疾患の進行抑制が可能となりました。肺がん領域では分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により、一部の患者さんで長期にわたる病勢制御が実現しています。一方で、非結核性抗酸菌症の急増や高齢者の呼吸器疾患への個別対応といった新たな課題への取り組みも求められています。

最後になりましたが、これまでご支援くださった島根大学の医療関係者の皆様、出雲市および島根県内の医師会ならびにメディカルスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。これをもちまして退職のご挨拶といたします。

問い合わせ先 内科学講座(呼吸器・臨床腫瘍学) TEL:0853-20-2580



ご報告



ご報告

寒い日が続くと眼圧が上がりやすい — 出雲市の大規模データで解明 —

眼科 助教 よしだ ゆうと
吉田 悠人

当院の眼科研究グループ（吉田悠人助教、谷戸正樹教授）は、当院外来患者の眼圧データと出雲市の気温データを解析し、気温と眼圧の関連について検討しました。

本研究では、2018年から2023年までに測定された約3万4千件の眼圧データと気象データを用い、時系列解析により両者の関係を検証しました。その結果、寒冷期に眼圧が上昇しやすい傾向が認められ、特に平均気温が2.2～12.2℃の範囲で眼圧が上がりやすいことが明らかとなりました。さらに、気温の変化が数日から数週間遅れて眼圧に影響する「ラグ効果」も確認されました。

眼圧は緑内障の発症・進行に深く関与する重要な因子であり、本研究は、気象環境を考慮した新たな眼圧管理の重要性を示すものです。今後は、気象条件と眼圧変動の関係を説明しうる機序の解明に向けて、自律神経系やホルモン動態の関与、さらに全身疾患や生活習慣を含む多様なリスクフェノタイプの組み合わせが眼圧に与える影響について包括的に検討していく予定です。

これらの研究を通じて、患者背景や気象・環境条件に応じた最適な緑内障治療介入の確立を目指し、診療の質向上に貢献していきます。



問合せ先 眼科医局 TEL：0853-20-2284

世界最大規模の北米放射線学会学術集会で 当科医師が教育展示部門賞の最高賞 Magna Cum Laude を受賞しました！

放射線科 診療科長 かじ やすし
楫 靖

2025年11月30日（日）から12月5日（金）に米国シカゴで開催された北米放射線学会学術集会2025において、当科の河原愛子医師が教育展示部門の最高賞であるMagna Cum Laudeを受賞しました。この学術集会は放射線医学分野で世界最大規模を誇る国際学会で、毎年世界各国から5万人以上の放射線医学専門家が参加します。

教育展示部門では、世界中から画像診断や画像下治療に関する教育的な演題が応募され、新規性や臨床的有用性、プレゼンテーションの質が総合的に評価されます。Magna Cum Laude は特に優れた演題に与えられる賞で、2025年は教育展示部門の1,134題のうち17題に授与され、日本人の発表では唯一の受賞でした。

河原医師が発表した演題は「眼窩先端部障害：解剖から画像まで ～臨床転帰改善のための包括的レビュー～」です。眼窩先端部は、眼球やその周囲と脳を結ぶ重要な神経や血管、筋肉などが集まる狭い領域で、様々な疾患が生じます。なかには迅速な診断と治療が求められる重篤な病態も含まれるため、画像診断による正確な評価が極めて重要です。河原医師は眼窩先端部病変の診断や治療に役立つ解剖や画像所見について報告を行い、その教育的価値が評価され今回の受賞となりました。関連する診療科の皆様、病院スタッフの皆様のご協力の賜物であり、感謝申し上げます。

今後も当科では、画像の向こうに患者さんの姿を思い浮かべながら、診療に直結する教育・研究活動を積極的に推進してまいります。引き続き皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



発表者 河原愛子医師

問合せ先 放射線医学講座 TEL：0853-20-2289





ご報告

島大病院ニュース 2026年3月

心理編

データで読み解く患者満足度アンケート — 感じ方を変える小さなナッジ —

「エレベーターが遅い」という声。入院患者アンケートでは、こうした指摘が以前から継続して見られていました。特に高齢の患者さんが多い当院では、その背景には「立って待つつらさ」という身体的負担が隠れていたのです。とはいえ、エレベーターの増設や改修は構造上・予算上の制限があり、すぐには実現できません。そこで患者満足度向上WGでは、時間そのものではなく、時間の感じ方に着目しました。

不満の背景には、ただ「待つ」ことに対して不満を感じているのではなく、「立って待たされる」ことのつらさがあるのでは。WGでは、そうした視点から見直しを進めました。そこで講じたのが、エレベーター前に椅子を設置するという、ごく小さな対応です。椅子の追加という数千円程度の低コスト施策であったにもかかわらず、設置後は「エレベーターが遅い」という不満はほぼなくなりました。

この取り組みは、行動経済学の観点からも有効とされるナッジに該当するアプローチです(図)。医療現場では、物理的制約があるなかでもできる工夫が求められます。仕組みを変えるのではなく、感じ方に働きかけるといった発想が、患者満足度を高める現実的な一歩となるのです。

今後も当院では、患者さんの声に耳を傾けて小さなナッジを積み重ねながら、より快適な医療環境の実現をめざしてまいります。

患者満足度向上WG

かわむら としひこ

医療情報部 准教授 河村 敏彦



図 ナッジ

※ナッジ: 人の感じ方や行動にそっと働きかけ、より良い選択につなげる工夫。

問合せ先 医療サービス課 TEL: 0853-88-3401



2026年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2026年3月

血管総合診療センターで 「下肢虚血性潰瘍の創部回診」を開始しました

血管総合診療センター 副センター長 にはら ひろゆき 新原 寛之

当センターでは、下肢虚血・糖尿病・透析関連などを背景とする下肢潰瘍・壊疽の診療機会が増加している現状を踏まえ、創部評価の標準化と治療方針の迅速的共有を目的に、「下肢虚血性潰瘍の創部回診」を新たに開始しましたのでご報告いたします。

本回診では、創面所見だけでなく、感染の有無、疼痛、周囲皮膚、滲出液量、栄養状態、併存疾患などを総合的に評価し、必要に応じてABI (Ankle-Brachial Index) 等の血流評価や画像所見も確認しながら、治療の優先順位(感染制御・血行再建・局所処置・免荷、圧迫・フットケア・栄養、リハビリ・退院調整等)を整理します。あわせて、写真記録等を用いて経時変化を把握し、治療促進と再発予防につなげることを行います。

また、併存疾患にて複雑化する潰瘍症例に対して、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー等が連携し、多職種での情報共有と意思決定を行うことで、院内外の連携強化にも取り組んでまいります。

今後も、患者さんに丁寧な治療を提供していくとともに、回診で得られた知見を日常診療に還元し、潰瘍診療の質向上に努めてまいります。



問合せ先 血管総合診療センター TEL: 0853-20-2225



2026年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



第120回医師国家試験国試ツアー

学友会代議員会学修支援委員会 国家試験等対策部会長 島根大学医学部医学科2年 さとう みゆ
佐藤 美友

2026年2月7日(土)～8日(日)、広島にて第120回医師国家試験が行われました。出発に先立つ壮行式では、竹谷医学部長、稲垣副学部長、長尾国試対策WG座長より熱い激励の言葉をいただき、各講座からいただいた応援ビデオメッセージは、不安や緊張を抱える受験生の背中を押すような心温まるものでした。

当初4日間の行程でしたが、最終日の大雪により安全を最優先して急遽延泊し、9日(月)に帰着しました。想定外の事態でしたが、無事に受験生が大学に戻ることができたことに安堵しております。

運営面では、2年生主体の体制となりマニュアル化などを進めてまいりましたが、今回の悪天候対応で新たな課題も見つかりました。今後は緊急時にも迅速かつ柔軟に対応できるよう、危機管理を含めたマニュアルの改善に努めます。

また、今回のツアーを無事に終えられたのは、多くの方々の支えがあったからです。当日のツアー業務を委託している島根大学生協の吉岡さんには、今年度も同行していただきました。急な延泊決定の際も、バス会社やホテルとの調整を迅速に進めてくださり、本当に心強かったです。そして、毎年同行してくださる長尾教授は、今年も受験生にとって大きな心の支えとなっていました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

今回の経験を糧に、来年度以降もより円滑な国試ツアー運営ができるよう、委員一同努力してまいります。



問合せ先 学務課学生支援担当 TEL: 0853-20-2088



お知らせ



感染症流行期における感染対策

感染制御部 副部長 はだの よしろう
羽田野 義郎

今シーズンはインフルエンザの流行開始が早く、12月より警報レベルとなり、2月になっても流行が続いています。新型コロナウイルス感染症も1月より徐々に増えていきます。学校の学級閉鎖なども頻繁に見られており、報道はされなくなりましたが、県内の病院ではクラスターの事例も散見されます。

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症は、多くの方は罹患後1週間程度で改善します。一方高齢者や持病をお持ちの方は、感染症自体が原因で、あるいは感染することで持病が悪化し、入院が必要になる場合が多々あります。

感染症は家庭や学校、職場など、日常生活のさまざまな場面を通じて広がる可能性があるため、流行期には日頃の対策を改めて意識し、かからない、広めない事が大切です。基本的な感染対策として、手洗い・手指消毒、人が多く集まる場所でのマスク着用、室内の定期的な換気などを継続することで感染リスクが下がることが期待されます。また発熱や咳、のどの痛みなどの症状がある場合には、無理をせず仕事や外出を控えましょう。正確な情報を把握し、過度に不安にならないことも大切です。

病院内には高齢者や持病をお持ちの方など、感染症にかかると重症化しやすい方がたくさんおられます。病院内では感染症が蔓延しないように感染症、または感染症が疑われる患者さんには適切な感染対策を行い、感染拡大防止に努めています。ご迷惑をおかけする場面もあるかと思いますが、ご協力いただけますと幸いです。

問合せ先 感染制御部 TEL: 0853-20-2483





島大病院ニュース 2026年3月

お知らせ



黒崎 CLS



木村 CLS



CLS2名体制で小児医療支援の充実を図っています！

小児科 診療科長

チャイルド・ライフ・スペシャリスト

チャイルド・ライフ・スペシャリスト

たけし 健
竹谷 健
あかね
黒崎 黒崎
はるか
きむら 春香
木村

当院では、このたびチャイルド・ライフ・スペシャリスト (Child Life Specialist : CLS) を2名体制とし、小児医療における心理社会的支援の充実を図っています。

(※日本国内で活躍しているCLSは、2025年7月時点で36施設50名です。)

CLSは、こどもの発達や心理、ストレス対処に関する専門知識をもとに、検査や処置、入院などの医療体験に伴う不安や恐怖を軽減し、こどもが主体的に医療に向き合えるよう支援する専門職です。発達段階に応じた説明(プリパレーション)、検査・処置時の同伴、遊びを通じた感情表出の支援、きょうだい児や家族への心理的支援などを行い、多職種チームの一員として医療の質向上に寄与しています。

こどもが、「できた」という成功体験を積み重ねることは、その後の治療継続や医療への信頼形成にもつながります。他院の先生方やスタッフの皆様にも、CLSの役割をご理解いただき、小児医療におけるこども・家族中心のケア推進の一助となれば幸いです。

問合せ先 小児科 TEL : 0853-20-2616



2026年3月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2026年3月

ご報告



みんなの心に寄り添う節分会 ～「おにはうち、ふくはうち」に込めた願い～

小児科 診療科長

チャイルド・ライフ・スペシャリスト

病棟保育士(ホスピタル・プレイ・スペシャリスト)

たけし 健
竹谷 健
あかね
黒崎 黒崎
あつみ
つばき 敦美
樫

2026年2月3日(火)の節分の日、小児病棟で「節分会」を開催しました。子どもたちは、節分に向けて新聞紙を丸めて特製の「豆」を準備し、当日は、病棟スタッフが扮する鬼が登場。病棟はたちまち笑顔と歓声に包まれ、賑やかな豆まきが始まりました。

今回の鬼は、子どもたちが過度に怖がらないよう、そして安心感を持てるように、あえて顔が見えるコスチュームで登場しました。見慣れたスタッフの表情が見えることで、自然と笑顔が広がっていききました。

豆まきの掛け声といえば「おにはそと、ふくはうち」ですが、今回はもう一つ、「おにはうち、ふくはうち」という声掛けも行いました。寂しさや怒り、不安といった感情は、入院生活の中で誰もが感じる自然なものです。私たちは、それらも子どもたちの成長に必要な大切な心の一部であると考えています。

「どんな気持ちを持ってもいいんだよ」

「そのままでもいいんだよ」

そんな思いを込めながら、子どもたちは自分の心の中にある鬼とも仲直りするように、元気いっぱい豆を投げ合いました。

最後には病棟中に笑顔があふれ、子どもたちとスタッフの心が一つになった、温かな一日となりました。小児病棟では、これからも子どもたちの心に寄り添う時間を大切にしていきたいと考えています。



問合せ先 小児病棟 TEL : 0853-20-2616



2026年3月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ



模擬患者さんを募集しています

病院医学教育センター/クリニカルスキルアップセンター センター長 ひろい なおき
廣井 直樹

模擬患者とは、「特定の症状を持つ患者さんを再現し、リアルに演じることができるようトレーニングをされた人」と定義され、現代の医療者教育では、欠かせない存在となっています。医学生や看護学生の医療コミュニケーションや診察技能の学修だけでなく、医療者以外の視点を知るために模擬患者の方々の協力が欠かせません。

本学では48名の模擬患者さんに活躍していただいておりますが、2024年度から模擬患者養成のプログラム化を進め、授業や試験等の教育に協力して下さる模擬患者の養成に取り組んでいます。講習会では、島根大学医学部の教育理念や医療者教育を取り巻く状況など、本学の医学教育に関する基本的なことから、練習用シナリオの読み合わせやロールプレイなど実践的な内容まで、5日間で学修します。

模擬患者活動に興味・関心のある方がおられましたら、お声掛けいただけましたら幸いです。ご不明な点やご心配事がある場合には下記までご連絡、ご相談ください。

お問い合わせ

クリニカルスキルアップセンター
模擬患者養成担当（高橋、大和田）まで
✉ skill-up@med.shimane-u.ac.jp
TEL 0853-20-2551 FAX 0853-20-2601

裏面あり



模擬患者募集

Simulated Patient / Standardized Patient

未来の医療者育成にご協力ください

模擬患者(SP)とは

あらかじめ設定されたシナリオに基づいて仮想の症状を訴える患者を演じる者のことをいいます。SPさんには、医学生の診察練習の相手をしていただきます。

■ 模擬患者としての活動 ■

- ▶ 医学科学生試験の医療面接(事前講習あり)
- ▶ 医学科学生や医療者の医療面接練習

■ 令和8年度 模擬患者養成講座 ■

①4/13 ②4/23 ③5/11 ④5/19 ⑤6/2

時間 13:30~15:40(④のみ16:00まで)

模擬患者として活動していただくには

原則①~⑤全ての養成講座に参加していただきます
(参加不可の日がある場合はご相談ください)

■ 応募条件 ■

- ▶ 連絡手段としてメールが使用できる方

問合せ・応募先

裏面の応募用紙をご利用になるか、メールまたはHP問い合わせフォームから受け付けております
必ず氏名・年齢・ご連絡先をお知らせください 2026年4月7日 締切

島根大学医学部附属病院
クリニカルスキルアップセンター



〈Mail〉 skill-up@med.shimane-u.ac.jp
〈Tel〉 0853-20-2551 〈Fax〉 0853-20-2601
〈HP〉 <http://www.clinicalskillup.jp/>



模擬患者について
ホームページでも詳しく
ご紹介しています!



ご報告



ご報告

経皮的心房中隔欠損症(ASD)閉鎖術を開始しました

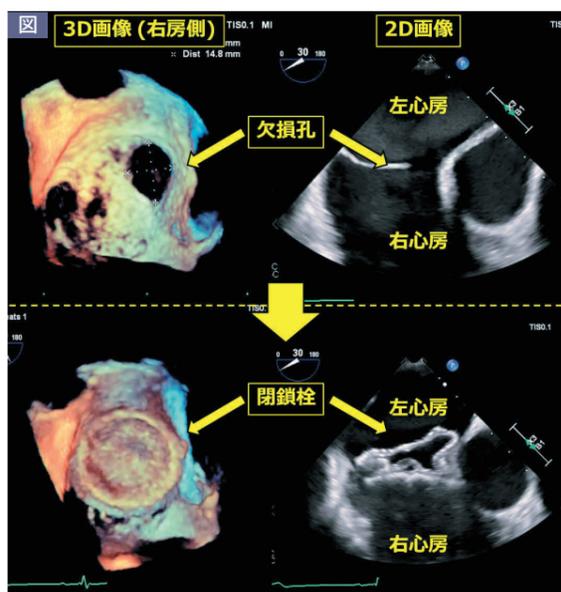
循環器内科	診療科長	たなべ	かずあき
		田邊	一明
	診療助教	おかた	たいじ
		岡田	大司

当院では2026年1月15日(木)、心房中隔欠損症(ASD)2例に対し、専門施設の指導医のもと、経皮的心房中隔欠損閉鎖術を施行いたしました。いずれも合併症なく手技を終了しております(図)。

また、循環器内科の岡田大司診療助教が、経皮的心房中隔欠損閉鎖術実施医(Figulla Flex II ASD Occluder)として認定されました。これまで県外の医療機関へ行かなければ受けられなかった治療が、開始可能となりました。

・心房中隔欠損症(ASD)とは

ASDは、心臓の左右の心房を隔てる壁に穴があく病気です。血液が左心房から右心房へ流れることで右心系に負担がかかり、息切れ、動悸、不整脈などの症状につながることがあります。



心房中隔欠損閉鎖術の経食道心エコー図
(上)治療前、(下)治療後

・経皮的心房中隔欠損閉鎖術について

本治療は、足の付け根の血管から細い管(カテーテル)を心臓まで進め、閉鎖デバイスで欠損孔を左右から挟み込むようにして閉鎖する治療です。適応は、経食道心エコーなどで解剖学的条件を確認したうえで判断します。開胸を伴わない低侵襲治療であり、術後疼痛の軽減、早期離床、入院期間の短縮が期待されます。

当院では今後も、解剖学的・血行動態評価を十分に行い、院内ハートチームで慎重に検討したうえで、質の高いASD治療を継続してまいります。健康診断で心拡大を指摘された方や、気になる症状のある方は、お気軽にご相談ください。

問合せ先 循環器内科医局 TEL: 0853-20-2249

医学教育等関係業務功労者表彰の報告会を行いました

総務課人事係

2026年2月6日(金)医学部長室において、「令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰」を受賞した本学看護師2名が看護部長とともに、医学部長および病院長へ受賞報告を行いました。

本表彰は、長年にわたり国公立大学において、医学・歯学に関する教育研究や患者診療等の業務に従事し、顕著な功績を挙げた方々を表彰するものです。表彰式は昨年12月2日(火)に文部科学省において行われ、全国から100名が受賞しました。本学からは、看護部から推薦のあった地域医療連携センター所属 角恵子看護師(勤続34年10か月)、B病棟4階所属 渡部美栄看護師(勤続37年4か月)の2名が受賞しました。

報告会では、授与された表彰状および記念品が披露されるとともに、文部科学省で行われた表彰式当日の様子や受賞時の心境について報告が行われました。終始和やかな雰囲気の中で進められ、受賞の喜びがあらためて共有される場となりました。

病院長からは、「長年ともに歩んできたお二人が表彰され、国からその功績を認められたことを大変喜ばしく思います」と述べられ、長年の献身的な取り組みに対する敬意と祝意が、笑顔とともに示されました。

受賞した看護師からは、「このたびの表彰を励みとし、今後も地域医療の発展および後進の育成に貢献できるよう、日々の業務に真摯に取り組んでいきたい」と、今後への意気込みが語られました。

問合せ先 総務課人事係 TEL: 0853-20-2022





外科を志す若手が集結！ 第2回島根手術手技セミナーを開催

心臓血管外科 診療科長	おおたに 大谷 やまざき 山崎	しゅん 舜 かずひろ 和裕
----------------	--------------------------	------------------------

しまね地域医療支援センターの若手医師自主企画助成を活用し、当院外科6診療科は、県内の若手医師・研修医、そして将来外科を志す医学生を対象とした「第2回島根外科手術手技セミナー」を2026年2月8日(日)に開催しました。昨年度の第1回開催が大変好評であったことを受け、今年は内容をさらに充実させて実施しました。

当日は記録的な寒波により大雪となりましたが、約50名の熱意ある参加者が集まりました。午前の実習では、気管形成、腸管吻合、動脈吻合、大動脈弁人工弁置換術、糸結び、皮膚縫合、エネルギーデバイス操作など、実臨床に直結する多彩なトレーニングを行い、若手医師にとって貴重な学びの機会となりました。

昼には、岡山大学病院 臓器移植センター山本治慎助教をお招きし、呼吸器外科・肺移植手術の実際を踏まえた「外科医としてのキャリア形成」についてご講演いただきました。将来の進路を考えるうえで大きな示唆を与える内容で、参加者からも高い評価が寄せられました。

午後からは、外科医を目指す思いを新たにした参加者が再び実習に臨み、会場は外の降雪に負けないほどの熱気に包まれました。開催後のアンケートでも概ね好評で、継続開催を望む意見が多く寄せられました。

本セミナーは、島根県内の外科医育成に向けた大きな一歩となる可能性を持ち、今後も継続的な開催をしてまいります。



問合せ先 外科外来 TEL: 0853-20-2384

